

2026年度「基礎科学研究助成」助成先決定

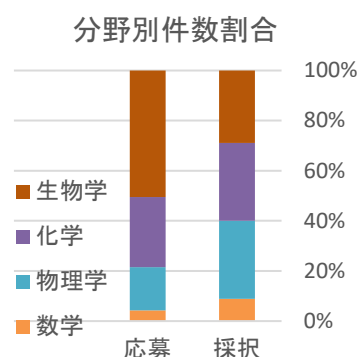
2026年度も、4/15～6/30募集、その後の選考を経て、10月理事会で助成対象が決定されました。昨年度、若手研究者により手厚い支援をするために大幅な制度改正を行い、2年目となりますが、1件平均の助成金額の増加などが進む結果となりました。

【2025年度の主な制度改正】

- ・応募可能年齢は45歳以下とする。
- ・応募対象となる研究分野は「数学・物理学・化学・生物学」（複合分野や工学の基礎分野の研究は各分野に含まれる）とし、該当すると思われる研究分野を申請者自らが指定して応募する。
- ・助成金額は申請金額と同額とし、減額しない。
- ・助成金総額を2億円とし、数学を除き各分野ほぼ同額の助成金配分とする。

【応募状況】

応募件数は963件と昨年度より78件増加しました。分野別に見ると、数学41(昨年比+14)件、物理学166件(同+22)件、化学270(同+45)件、生物学486件(同-3)件でした。申請金額の平均は435万円と昨年度より46万円増加し、過去最高であった昨年をさらに更新しました。応募者の平均年齢は38.6歳となり、昨年より0.3歳上昇しました。



【選考・採択状況】

選考は、例年通り選考委員長を含む13名の選考委員によって、2回の選考委員会を通じて実施されました。

今年度の採択件数は45件、昨年比では11件の減少となりました。分野別に見ると、数学4件、物理学および化学は14件、生物学は13件となり、数学以外の分野で昨年比3～5件減少しました。応募件数の多かった生物学の申請者には昨年よりもさらに厳しい採択率となりました。また、助成金総額は2億135万円で、1件平均447万円は昨年比90万円増加の過去最高、助成対象者の平均年齢は38.4歳で、昨年より1.1歳上昇しました。

【採択された研究者と研究内容の紹介】

今回海外の大学に所属する日本人研究者が3名採択されましたが、そのお一人を紹介したいと思います。

ワシントン大学（米国シアトル）産婦人科
テニュアトラック助教 浜崎 伸彦さん

研究テーマ：「ヒト体軸発生における自己組織化の原理の解明」

○海外の大学（ワシントン大学）へ赴任された理由

自分の中の研究者としての幅、特に働き方や考え方、サイエンスの進め方についての幅を広げたくて6年前に渡米しました。ただ、当時の考えとしては、将来後悔しない選択肢を選んだと言った方がより正しいかもしれません。

○応募のきっかけ

ヒトの体がどのようにつくられるのかという基礎的な問いを、幹細胞を使って追究する研究を進めるためです。体の軸が生まれる仕組みを実験的に調べ、その原理を明らかにする研究への支援を求め、応募しました。

○この研究テーマを取り上げた理由

私たちの体は、一つの細胞から生まれた多様な細胞が組織をつくり、組織同士が互いに影響し合うことで形づくられます。その過程には、分かったつもりでも実は分かっていないことが多く残っています。新しいモデルをつくる楽しみは、普段は疑問すら持たない根本的な問いに気づき、それを実験で確かめられるようになることです。今回は、体の前部と後部に対応する組織を別々につくって組み合わせるといふ、実際の胚では起こらない状況を逆に利用し、体づくりを支える自己組織化の原理に迫りたいと考えています。

○この研究の可能性と今後やりたいこと

こうした組織同士の協調的な自己組織化は、体づくりのさまざまな場面で起きていると考えています。今後は、そこに共通するルールがあるのか、あるとすればどのようなものなのかを探る方向へ、研究を広げていきたいと思っています。研究が進むことで、今は想像していない現象や、体づくりの見方が変わるような発見にも出会えるかもしれません。一つの発見が次にどんな研究につながり、そこから何が見えてくるのだろうと、今からとても楽しみにしています。

